

嶺北地域アクションプラン 実行3年半の取り組みの総括 [個別]

【評価方法】

R5数値目標に対するR5年度末見込みまたは直近の実績の達成状況により
5段階評価を実施

区分	数値目標に対する評価基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上 110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上 100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満

嶺北地域本部

令和5年9月4日（月）

指標	評価の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満

【地域アクションプラン 総括シート】
 ≪嶺北地域≫

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性	
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価		
1 れいほくブランドの園芸産地の維持 ≪嶺北地域全域≫ 農業で生活できる所得が得られるよう、「れいほく八菜」「れいほく八花」等の収量・品質を向上させ、販売額の増加を目指す。 【実施主体】 ・◎JA高知県（土長地区・園芸部会、花き部会、コンフィテンスフラワー） ・◎大豊とまと生産者 ・JA高知県（土長地区） ・中山間農業複合経営拠点	農業	<p><産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み> (1)栽培管理指導 【八菜】 かん水・温湿度管理、病害虫防除、整枝方法等：4～9月 冬期に向けた温度管理、土壌病害対策、実証ほの中間報告等：10～12月 定植前のかん水管理、病害虫防除、防除暦の改訂、実証結果報告等：1～3月 (2)土壌調査による改善指導及び生育状況確認 【花き】：4～12月</p> <p><生産の維持と担い手の育成> 経営改善支援 農家の課題共有・経営改善目標の設定：4～5月 取組状況の確認・経営改善指導：4～12月 経営改善の取組報告：10～12月 経営改善結果の取りまとめ及びフィードバック：1～3月</p>	<p><産地・生産の維持拡大や生産安定に向けた取り組み> ・省力的な病害対策（硫黄粉剤・燻煙剤の活用・除湿）、基本的な栽培管理技術（かん水・温度等）の普及が進んだ。 ・土壌調査及び施肥改善指導を行い、土壌のバランスが改善された。</p> <p><生産の維持と担い手の育成> ・経営支援農家に対して指導を実施し、5/15戸が経営改善目標を達成した。</p>	JA園芸部販売額 <目標値(R5(暦年))> 1.8億円 (年間) <出発点(R元(暦年))> 1.7億円 (年間)	<R5年度末見込> 1.8億円 (年間) 【R5(暦年)】 <直近の実績> 1.79億円 (年間) 【R4(暦年)】	A	<p>[評価] ・省力的な病害防除技術や基本管理技術の普及を行い、紹介した技術を導入している農家が増加してきている。 ・土壌消毒の効果を高めるため、処理時期を早めたり、土壌水分状態に気を配る等新たな取り組みや改善を行う農家が増加してきている。</p> <p>[課題] ・土壌病害の減少 ・栽培管理の省力化</p>	<p>・土壌調査による病害対策の推進 ・省力的な栽培管理技術の普及 ・経営支援農家の目標達成に向けた支援</p>	
				JA花き部会・コンフィテンスフラワー販売額 <目標値(R5(暦年))> 1.85億円 (年間) <出発点(R元(暦年))> 1.3億円 (年間)	<R5年度末見込> 1.87億円 (年間) 【R5(暦年)】 <直近の実績> 1.87億円 (年間) 【R4(暦年)】				A
				大豊とまと販売額 <目標値(R5(暦年))> 3,000万円 (年間) <出発点(R元(暦年))> 2,000万円 (年間)	<R5年度末見込> 3,000万円 (年間) 【R5(暦年)】 <直近の実績> 2,743万円 (年間) 【R4(暦年)】				

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>2 ブランド米「土佐天空の郷」の販売促進</p> <p>《本山町》</p> <p>農家の高齢化によって、(一財)本山町農業公社が管理する農地面積は増加している。公社では農地を守るため、米の販売価格の向上を目指し、ブランド米「土佐天空の郷」の生産安定と販路拡大、ブランド力の向上や省力化を目的としたスマート農業に取り組む。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎本山町特産品ブランド化推進協議会 (一財)本山町農業公社 本山町 	農業	<p>＜ブランド米の生産維持、販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産量不足に対応するための「土佐天空の郷」栽培基準の見直し 生産者の確保（育苗管理等指導、生育状況確認等における技術指導） <p>＜スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 水田センサからの気温、水温および水位データの収集、収穫適期予測の実施及び周知 ドローンによる防除効果、散布実績の確認と効率的な運営方法の検討 <p>＜おにぎり製造販売事業等による収益拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 本山さくら市内に土佐天空の郷を100%使用したおむすび屋「おむすび処こめのみみ」を開店（R2） 産業振興アドバイザー制度活用による余剰ご飯を活用した新商品開発（R3） 	<p>＜ブランド米の生産維持、販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者の高齢化等により、生産量が増えていく見込みは低く、現状の販売額も伸び悩んでいる。 <p>⇒販売額 R2：0.5億円 → R4：0.6億円</p> <p>⇒生産者数 (直近のピーク時：H27：41人) R2：36人 → R4：32人</p> <p>＜スマート農業の推進による栽培管理技術の向上及び省力化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 水田センサ導入により水の見回りに係る負担軽減につながっている。 <p>＜おにぎり製造販売事業等による収益拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> おにぎり等加工品開発 <p>⇒5種類の加工品を販売開始（R4）</p>	<p>「土佐天空の郷」、 「天空の棚田米」 合計販売額</p> <p>＜目標値（R5）＞ 1億円 (年間)</p> <p>＜出発点（R元）＞ 0.6億円 (年間)</p>	<p>令和5年度末見込 直近の実績</p> <p>＜R5年度末見込＞ — (年間)</p> <p>＜直近の実績＞ 0.6億円 (年間) 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開発した5種類の加工品を継続販売につなげることができた。 生産者の高齢化等により、生産量が増える見込みは低く、R4販売額は目標を下回っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産者の減少、収量の低下 来店者、購入者の属性調査の分析結果を加工品開発へ反映ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な肥培管理、病害虫防除の徹底により、必要な出荷量の確保・品質の向上につなげる。 来店者、購入者の属性分析が実施されるよう、定期的実施状況を確認するとともに、加工品開発に反映できるよう支援していく。
<p>3 直販所「さくら市」を核とした地域活性化</p> <p>《本山町》</p> <p>食材供給拠点施設として地域の農産物の計画生産と販売拡大に取り組むとともに、特産品の開発・販売等による魅力ある観光スポットとして交流人口を拡大し地域の活性化を図る。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎本山さくら市生産組合 本山町 	農業	<p>＜商品の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 直販出荷農家対象の栽培勉強会開催（R4） 本山町農業公社の野菜苗の供給に向けた検討（R2～R4） 庭先集荷の体制づくり及び実施（R2） <p>＜販売の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費者交流イベントの実施（R3、R4） 「まるごと高知」での野菜、加工品詰め合わせの販売（R2、R3） 土日の町外からの利用者増を図るため、嶺北から比較的遠い地域の商品をお互いに販売する産地間交流の実施（R5） <p>＜組織体制の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 店舗スタッフの資質向上と商品管理技術向上に係る嶺北農業改良普及所における支援 店舗の円滑な運営を行うために、本山町農業公社に運営委託開始（R4） 	<p>＜商品の充実＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売の拡大 <ul style="list-style-type: none"> 農家の高齢化等により生産者が減少し、野菜の品目数が少なく、売上は伸び悩んでいる。 <p>⇒売上高 R2：1.21億円 → R4：1.17億円</p> <p>⇒生産者数 R2：446人 → R4：433人</p> <p>＜組織体制の整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生管理、食品表示に係る研修会への参加等により、店舗スタッフの資質向上につながった。 本山町農業公社への店舗運営業務の委託により、運営管理体制が整った。 	<p>売上高</p> <p>＜目標値（R5）＞ 1.8億円 (年間)</p> <p>＜出発点（R元）＞ 1.2億円 (年間)</p>	<p>令和5年度末見込 直近の実績</p> <p>＜R5年度末見込＞ — (年間)</p> <p>＜直近の実績＞ 1.17億円 (年間) 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 農家の高齢化等により生産者が減少し、野菜の品目数が少なく、売上は伸び悩んでいる。 栽培勉強会への参加により、組合員の野菜栽培技術の向上につながっている。 衛生管理や食品表示の講習会への参加により、店舗スタッフによる安心・安全な商品を適正に表示して販売できている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 品薄時期（特に冬場）の生産量、品目数の増加とともに、特に土日の町外の利用者増を図り、売上の増加につなげる必要がある。 本山町農業公社における店舗の円滑な運営管理。 	<ul style="list-style-type: none"> 売上の目標達成に向けて、特に冬場の品薄時期における生産量、品目数を補うため、嶺北から比較的遠い地域の商品をお互いに販売するなど、直販所同士の産地間交流に取り組み、土日の町外からの利用者増にもつなげていく。 消費者の購入意欲を高めるために、本山町農業公社が中心となり、店内のレイアウト変更や販売動向の分析を行い、直販所としてのさくら市の機能強化と売上増に向けて取り組む。

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>4 銀不老による地域活性化の取り組み 《大豊町》</p> <p>大豊町で代々受け継がれ、生産されてきた希少価値の高い豆である「銀不老」の生産拡大及び品質確保に取り組む。また、「銀不老」を活用した加工品開発の検討も進め、地域活性化を図る。</p> <p>【実施主体】 ・◎大豊町銀不老生産組合 ・(株)城西館 ・日本航空(株) ・大豊町</p>	農業	<p>＜生産者及び生産量強化に向けた取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報等による農家への生産呼びかけ ・種子の配布 <p>＜出荷体制の仕組み作り＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会、幹事会の開催 ・関係団体による仕組み作りの検討 <p>＜ブランド化に向けた取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術相談会の実施 ・体験交流イベントの開催 ・(株)城西館と連携した農作業イベントの実施 ・日本航空(株)高知支店と連携した農作業イベントの実施 ・テレビ取材対応、番組での放送（2回） 	<p>＜生産者及び生産量強化に向けた取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町広報媒体を通じた農家への生産呼びかけ（5回） ⇒組合員数の増加 R元：0名 → R5：46名 ・種子配布会の実施（5回） <p>＜出荷体制の仕組み作り＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術相談会の実施（4回） 	<p>出荷量</p> <p>＜目標値（R5）＞ 1.2t （年間）</p> <p>＜出発点（R元）＞ 0.59t （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 0.36t （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀不老豆を通じたイベントを県内事業者と開催できたことで、テレビ等への露出が増え、銀不老豆のPRが一定できた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用創出につなげるためには1千万円程度の売り上げが必要であり、大幅な生産拡大が必要。 ・販路が限られている。 ・組合組織体制が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる組合員数の確保等による生産量の増加 ・安定した運営を行うための組織体制の確立 ・販路拡大に向け、新商品の開発等売り方の検討
<p>5 本山町施設園芸生産拡大クラスタープロジェクト 《本山町》</p> <p>本山町内の施設野菜農家への環境制御技術等の導入や新規参入企業が実施する次世代型園芸用ハウス整備による農産物の生産拡大を核として、中山間農業複合経営拠点や農産物加工・販売事業者、地域の観光施設等が連携することで、農業クラスターを形成し、本山町における地域経済の拡大再生産の好循環を図る取り組みを進める。</p> <p>【実施主体】 ・◎エフビットファームこうち(株) ・◎施設野菜農家 ・本山町 ・(一財)本山町農業公社 ・JA高知県（土長地区）</p>	農業	<p>＜施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代型園芸用ハウスの整備（R3） ・次世代園芸ハウスにおけるパプリカの栽培開始 ・施設野菜農家、エフビットファームこうち(株)に対する栽培管理及び病害虫防除指導 <p>＜二次・三次産業との連携の具体化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光施設との連携の検討 	<p>＜施設野菜の出荷量増加に向けた取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パプリカの栽培が開始され出荷量も概ね計画通り順調に進んだ。 ⇒施設野菜の出荷量 R2：105t → R4：169t ※エフビット R2：0t → R4：54.1t 施設野菜農家 R2：104.9t → R4：114.9t <p>＜二次・三次産業との連携の具体化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本山町農業クラスタープラン意見交換会の開催（R5.3.24） 	<p>施設野菜出荷量</p> <p>＜目標値（R5(暦年)）＞ 360t （年間）</p> <p>＜出発点（H30(暦年)）＞ 107t （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ 360t （年間） 【R5(暦年)】</p> <p>＜直近の実績＞ 169t （年間） 【R4(暦年)】</p>	A	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次世代園芸ハウスによるパプリカ栽培が開始され、出荷量も概ね順調に推移しており、施設野菜農家の出荷量も増加した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パプリカの二次、三次産業との連携の具体化 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設野菜生産者の生産安定、拡大 ・次世代園芸ハウスにおけるパプリカの安定生産 ・パプリカの加工品開発や飲食店、観光施設との連携した取り組みを具体化し、二次、三次産業との連携を目指す。
		<p>＜産地力強化のための担い手の確保・育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産地提案書を活用した担い手確保 ・産地提案書による新規就農への呼びかけ及び産地紹介動画作成（R3） 	<p>＜産地力強化のための担い手の確保・育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エフビットファームこうち(株)の新規参入に伴い、雇用就農が進み新規就農者数が増加した。 ⇒新規就農者数 H28～R元：1人 → R2～R4：5人 	<p>新規就農者数 (施設野菜：雇用就農含)</p> <p>＜目標値（R5）＞ 6人 （R2～5累計）</p> <p>＜出発点＞ 1人 （H28～R元累計）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ 6人 （R2～5累計）</p> <p>＜直近の実績＞ 5人 （R2～4累計）</p>	A	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エフビットファームこうち(株)の参入により雇用就農による新規就農が進んだことは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設野菜農家の高齢化、担い手不足が進んでいるが、ハウスの老朽化、施設建設費ほか資材費の高騰などにより新規就農が進んでおらず、担い手の育成・確保が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就農相談対応や他産業との連携による所得確保などで、担い手の育成・確保の仕組みづくりを強化していく。

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性															
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価																
<p>6 ㈱大豊ゆとりファームを核とした地域産業を持続化させる取り組み</p> <p>《大豊町》</p> <p>中山間地域で安心して住み続けることができる地域を実現するため、大豊町内の農地保全及び担い手の確保・育成に取組みとともに、環境に配慮した農産物の生産及び販売により、持続可能な産業振興を図る。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①㈱大豊ゆとりファーム ・大豊町 	農業	<p>＜農地保全に向けたビジネスの展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲育苗事業の推進 ・農地刈り入れや農作業受託の拡大 ・直販所向けの庭先集出荷活動 ・地域特産物（ぜんまい、碁石茶等）の製造 ・クールベジタブルの生産拡大のための作業省力化に係る設備導入、新たな販売先の掘り起こし ・自立に向けた体制見直し及び収益力の強化 ・経営改善に向けたアドバイザー導入（農業振興部） <p>＜新規就農者の確保・育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊や研修生の募集、受入 	<p>＜農地保全に向けたビジネスの展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稲育苗を町内外へ出荷（年1万トン程） 大豊町内でのシェア ⇒ R2：0ha → R5：50ha ・大豊町外（南国市・香美市）で農作業受託実施 ・クールベジタブルを3種類に集約化 <p>＜新規就農者の確保・育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者受入 ⇒4名のうち2名就農、1名ファーム就職 	<p>クールベジタブルの 販売額</p> <p>＜目標値（R5）＞ 1,400万円 （年間）</p> <p>＜出発点＞ 913万円 （H28～30平均）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 403万円 （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収益事業（育苗、クールベジタブル）と不採算事業（農地保全や就農支援など）の両面を担い、中山間複合事業体として確立した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の収益力が弱く、雇用の受け皿となる複合事業体にはなっていない。 ・人材不足（正規雇用が減少している） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーク時（H3年度）の6人体制に戻すため、まずは収益性の高い事業の整理など、事業戦略の具体化を進める。 ・その後、碁石茶の受託生産や、耕作放棄地を活用した農作業受託システムの構築などの取組みを進め、雇用の受け皿として規模拡大を図る。 															
<p>7 土佐あかうしの競争力の確保による肉用牛産業の再興</p> <p>《土佐町、本山町、大豊町》</p> <p>土佐あかうしの産地を守り、地域の畜産振興を図るため、意欲ある生産者の規模拡大を推進するとともに、土佐あかうし生産基地について、繁殖・肥育一貫経営を軌道に乗せ、安定的な出荷体制を構築する。また、生産と食肉加工から販売に至る畜産の6次産業化に向けた取組みを進める。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①㈱れいほく未来 ・肉用牛生産組合 ・JA高知県（土長地区） ・本山町 ・土佐町 ・大豊町 	農業	<p>＜生産力の向上と6次産業化に向けた取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜保健衛生所による定期的な飼養管理技術指導、繁殖雌牛及び肥育牛の増頭 ・㈱れいほく未来のガバナンス、業務執行体制の強化 産業振興アドバイザー招へい4回（R3） ・牛舎への送風機、保定用設備の整備 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金 R3：10,763千円 ・6次産業化については嶺北地域は、㈱れいほく畜産のミートセンターがその役割を持ち、食品加工の高度化（HACCP対応施設）の整備を検討 <p>＜堆肥の利用促進及び県内産粗飼料の積極的な利用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自給粗飼料作付けの増大及び稲WCS等の利用拡大 	<p>＜生産力の向上と6次産業化に向けた取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・㈱れいほく未来の肥育成績の向上 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>R3</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td>⇒ A2</td> <td>51.8%</td> <td>22.5%</td> </tr> <tr> <td>A3</td> <td>25.3%</td> <td>45.0%</td> </tr> <tr> <td>A4</td> <td>15.7%</td> <td>26.7%</td> </tr> <tr> <td>A5</td> <td>0%</td> <td>1.7%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・㈱れいほく未来の飼養頭数の増加 ⇒ R2：347頭 → R4：379頭 <p>＜堆肥の利用促進及び県内産粗飼料の積極的な利用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲WCS利用農家数の増加 ⇒ R2：4戸 810口ール → R4：8戸 1,973口ール 		R3	R4	⇒ A2	51.8%	22.5%	A3	25.3%	45.0%	A4	15.7%	26.7%	A5	0%	1.7%	<p>土佐あかうしの販売額</p> <p>＜目標値（R5）＞ 3.5億円 （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 3.2億円 （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 4.0億円 （年間） 【R4年度末】</p>	S	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐あかうしの増頭対策が順調に進むとともに、肥育成績も向上し、R4販売額はR5目標額を上回った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・㈱れいほく未来の肥育成績の改善 ・飼料価格及び資材価格の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・飼養管理技術の向上、繁殖雌牛及び肥育牛のさらなる増頭および安定的な出荷体制の確立に向けて、家畜保健衛生所による定期巡回指導の実施 ・県内産粗飼料の積極的な利用促進 ・㈱れいほく畜産のミートセンター（加工・流通部門）に係る施設改修の検討、加工品の開発 ・地域内での消費拡大に向けたイベントの開催による、「あかうし＝嶺北」のイメージの定着化。
	R3	R4																					
⇒ A2	51.8%	22.5%																					
A3	25.3%	45.0%																					
A4	15.7%	26.7%																					
A5	0%	1.7%																					

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>8 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化</p> <p>《大川村》</p> <p>大川村の基幹産業である畜産の振興により地域の活性化を図り、雇用の確保、所得の向上につなげる。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎(株)むらびと本舗 ◎(一社)大川村ふるさとむら公社 大川村 	農業	<p>＜【大川黒牛】生産体制の強化＞</p> <p>※実施主体：(株)むらびと本舗</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖牛、肥育牛の増頭 ・家畜保健衛生所の巡回指導等による飼養管理技術支援 	<p>＜【大川黒牛】生産体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷頭数の増および販売額が増加した。 <p>⇒出荷頭数 H30：59頭 → R4：62頭</p> <p>販売額 R2：6,753万円 → R4：7,825万円</p> <p>1頭あたり平均販売額 R2：113万円 → R4：126万円</p>	<p>黒牛の販売額</p> <p>＜目標値 (R5)＞ 7,500万円 (年間)</p> <p>＜出発点 (H30)＞ 7,100万円 (年間)</p>	<p>令和5年度末見込 — (年間)</p> <p>＜直近の実績＞ 7,825万円 (年間) 【R4年度末】</p>	A	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出荷頭数が増加し、R4販売額はR5目標を上回った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖雌牛、肥育牛の増頭 ・飼料価格及び資材価格の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖、肥育一貫生産体制の充実に向けた牛舎増築等の検討 ・巡回指導等による技術支援の継続
		<p>＜【土佐はちきん地鶏】生産体制の強化と飼養管理・食鳥処理技術の向上並びに販路拡大＞</p> <p>※実施主体： 【生産】(株)むらびと本舗 【加工・販売】(一社)大川村ふるさとむら公社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家による経営分析および経営改善計画策定 (R2) 産業振興推進総合支援事業費補助金 (ステップアップ事業) を活用 2,000千円 ・販売量に見合った生産規模の適正化、販売戦略の見直し (R2～R4) 産業振興アドバイザー (課題一貫支援型) 活用 ・生産施設 (育成舎3棟分) において自動給餌器頭の整備 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金 R2：5,400千円 ・はちきん地鶏事業再建チーム会議 (R3～R4 計2回) ・はちきん地鶏事業経営改善会議 (R3～R4 計4回) ・イベント販売等の実施 (とさのさと店頭販売、職場等への訪問販売、はちきん食べようカーニバル、大川村謝肉祭、土佐の豊穰祭ほか) 	<p>＜【土佐はちきん地鶏】生産体制の強化と飼養管理・食鳥処理技術の向上並びに販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売量に見合った生産規模の適正化により、出荷羽数が減少した <p>⇒出荷羽数 R2：6.2万羽 → R4：5.4万羽</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内及び首都圏や関西圏等での販売戦略の強化により、営業収入は増加傾向 <p>⇒営業収入 R元：115,168千円 → R2：124,161千円 → R3：96,002千円 → R4：126,733千円</p>	<p>はちきん地鶏の 出荷羽数</p> <p>＜目標値 (R5)＞ 12.5万羽 (年間)</p> <p>＜出発点 (H30)＞ 7.4万羽 (年間)</p>	<p>令和5年度末見込 6.0万羽 (年間)</p> <p>＜直近の実績＞ 5.4万羽 (年間) 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐はちきん地鶏の生産から加工・販売までの一貫体制のもと、県内外での営業活動が強化された。 ・販売量に見合った生産規模の適正化による出荷羽数調整のため、R4出荷羽数は、R5目標を大きく下回っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標羽数との乖離が大きい (R5目標12.5万羽：R4実績5.4万羽)。また、縮小傾向ではあるが、赤字が続いている。 ・はちきん地鶏事業のコストの把握及び検証を行い抜本的な収支の改善が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県、大川村、関係機関が連携して、はちきん地鶏事業の生産管理、事業全体のマネジメントを強化し、単年度黒字への転換を図る。 ・大幅な販路拡大が必要であり、収益率の高い加工品の営業を強化する。 ・土佐はちきん地鶏振興協議会と販売価格について協議する。

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>9 嶺北地域における林業クラスター化の取り組み</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>嶺北地域の豊かな森林資源を生かし、間伐から素材生産、製材・加工を集約したクラスター化を図ることにより、林業での地域活性化を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自伐林家 ◎森林組合 ◎素材生産事業者 森林所有者 高知おおとよ製材㈱ 嶺北広域原木安定供給協議会 大豊町・本山町 土佐町・大川村 	林業	<p>＜安定的な木材生産・供給システムの構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 林業事業者との増産に向けた聞き取り、協議 森の工場設定の検討 各事業者の木材生産計画進捗管理、指導及び情報収集 <p>＜再造林の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 嶺北地区増産・再造林推進協議会による再造林の推進 <p>＜木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 本山町の木質バイオマス発電施設が稼働 未利用材（林地残材）の利活用に係る支援の実施 <p>＜製材品等の生産＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材加工施設（製材所）の施設整備（木材乾燥機など） CLT建築推進協議会との連携 	<p>＜安定的な木材生産・供給システムの構築＞</p> <p>＜再造林の推進＞</p> <p>＜木質バイオマス発電施設等の導入の検討・整備の推進＞</p> <p>＜製材品等の生産＞</p> <p>⇒森の工場数</p> <ul style="list-style-type: none"> R2 45団地 R3 47団地 R4 48団地 <p>⇒原木消費量（製材所：大豊町、本山町）</p> <ul style="list-style-type: none"> R2 109,653m³ R3 122,913m³ R4 124,943m³ <p>⇒低質材搬出に係る支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> R2 3,333t R3 4,803t R4 3,935t 	<p>素材生産量</p> <p>＜目標値（R5）＞ 144,000m³ （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 105,557m³ （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 124,943m³ （年間） 【R4年度末】</p>	B	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の森林資源が成熟し、林業事業者が皆伐を主体として木材増産に取り組んだことで素材生産量が増加した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年度増加する目標に応じた素材生産量の確保 皆伐事業の増加に対応する森林資源の確保（事業地の確保） 担い手の確保と林業技術の継承 	<ul style="list-style-type: none"> 素材生産量の増加及び事業地の確保を進めつつ、豊富な森林資源を活用した木工品の販路拡大、担い手確保への支援など取り組み内容を整理していく。
<p>10 れいほくスケルトン（嶺北材の郵別販売）をはじめとする嶺北材の促進</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>れいほくスケルトン（嶺北材の郵別販売）の促進に取り組むとともに新たなマーケットの開拓として非住宅分野の木造化・木質化に向けた生産供給体制の整備により、嶺北材の販路拡大を図る。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎レイホク木材工業(協) 本山町 土佐町 	林業	<p>＜販売促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 四国内における継続的な販売活動の実施 <p>＜エンドユーザーへのPR活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> パンフレット・ホームページによるPR活動 	<p>＜販売促進＞</p> <p>＜エンドユーザーへのPR活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 嶺北材納材量の増加 <p>⇒嶺北材納材実績（香川県、高知県）</p> <ul style="list-style-type: none"> R2 222m³香川県9棟,高知県5棟 R3 443m³香川県17棟,高知県13棟 R4 514m³香川県18棟,高知県13棟 	<p>木材の出荷量</p> <p>＜目標値（R5）＞ 2,000m³ （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 1,040m³ （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 514m³ （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内外の取引先の需要に応えるため、嶺北材の郵別販売に取り組む、嶺北材の良さをPRすることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建築士等との連携による取引先の開拓 	<ul style="list-style-type: none"> 実施主体において、今後も県内外の取引先の需要に応えるため、嶺北材の郵別販売を実施していく。

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性	
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価		
<p>11 嶺北地域内のシソ・ユズの活用による地域振興</p> <p>《本山町》</p> <p>町内でのシソ・ユズの生産量増加に向けた取り組みを行うとともに、加工の強化や、ジュース工場を整備することで、町内でのシソ、ユズの生産から加工までの一貫体制を確立し、地域経済への波及効果の拡大を図る。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①尙さめうらフーズ ・集落活動センター汗見川 ・生産者 	商工業	<p>＜嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル製品製造工場の整備 (R3) <p>(中小企業庁事業再構築補助金)</p> <p>＜新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した新商品の開発 (シソ・ユズのジュース、アイス等) <p>＜県外での販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーパーマーケットトレードショーなど大規模商談会への参加、首都圏や関西圏を中心に営業活動実施 ・SNSを活用した「本山おいしそうれしそたのしそキャンペーン」による販売促進活動 (R3～) <p>＜原料生産の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シソ栽培を行う集落活動センター汗見川との連携 	<p>＜嶺北地域のシソ・ユズを活用したジュースの生産＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル製品製造工場がR4から本格稼働し、それまでOEMで生産を委託していた「しそごち」を始めとするペットボトル飲料を自社製造に切り替えることができた。 <p>＜新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「本山おいしそサワーの素」発売開始 (R2) <p>＜県外での販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外での販路拡大が進み、「しそごち」の売上本数が伸びた。 ⇒R元：15万本 → R4：22万本 <p>＜原料生産の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒尙さめうらフーズと集落活動センター汗見川とのコラボによるしその商品化・地産外商の取り組みが、「高知県地場産業大賞 産業賞」を受賞 (R3) 	シソ・ユズ商品の販売額	<p>＜目標値 (R5)＞</p> <p>1億円 (年間)</p> <p>＜出発点 (H30)＞</p> <p>0.65億円 (年間)</p>	<p>＜R5年度末見込＞</p> <p>1億円 (年間)</p> <p>＜直近の実績＞</p> <p>0.65億円 (年間) 【R4年度末】</p>	A	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新工場（ペットボトル製品製造工場）の整備により、主商品「しそごち」を始めとするペットボトル飲料を自社製造に切り替えることができた。 ・「本山おいしそサワーの素」などの新商品も販売開始されるとともに、県外の大手量販店との取引も始まり販路拡大も順調で、地域を代表する事業者として成長を遂げている。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産側の汗見川地域における高齢化を見据えた原料（シソ抽出液）の生産体制の確保が必要。 ・加工販売側の尙さめうらフーズにおけるスタッフの確保。 ・原料（シソ抽出液）の抽出機械の導入による生産効率化及び生産量の拡大が必要。 ・しそジュースのさらなる販路拡大が必要。 ・本山おいしそサワーの素の飲食店での取り扱いなど新たな販路開拓が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・汗見川地域の生産効率化に向けた工場整備、抽出機械の導入検討。 ・販路拡大による収益向上により、良質な雇用を確保するとともに、Uターンサポートセンターと連携し、人材を確保。 ・メイン商品のジュースとともに、「本山おいしそサワーの素」の販路拡大に注力し、さらなる販路拡大を目指すとともに、海外進出を見据え、HACCP対応を含めたハード整備を検討。

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>12 嶺北地域の特産品販売拡大への支援</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>農業インターンシップを経て移住した移住者が、嶺北地域の小規模農家等が生産する農産物を集約し、都市圏の中小規模飲食店等に直接販売する仕組みを構築する。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎sanchikara NPO法人土佐さめうら観光協会 土佐町 本山町 大豊町 大川村 	商工業	<p>＜農産物の直接販売の仕組みづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> JAの集出荷場移転の検討状況を踏まえたJAとの連携の模索 事業推進上の課題等についての土佐町との協議 地域の取り組み（観光、社会教育等）との連携強化 <p>＜農産物の確保＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売商品（農産物）の発掘 <p>＜販路の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 関西を中心とした商談会への参加 まるごと高知との連携 	<p>＜農産物の直接販売の仕組みづくり＞</p> <p>＜農産物の確保＞</p> <p>＜販路の拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接取引飲食店等の件数増 ⇒ R4：20件 直接取引関係生産者等の増 ⇒ R4：15人 	<p>県外飲食店等との直接取引による販売額</p> <p>＜目標値（R5）＞ 3,000万円 （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 1,955万円 （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ － （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 3,500万円 （年間） 【R4年度末】</p>	S	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接取引飲食店や生産者は順調に増加し、県外飲食店等との直接取引によるR4販売額は、R5目標を上回っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> さらなる農産物の確保に向けた仕組みづくり（出荷する農家の負担軽減のための集出荷拠点の集約） 	<ul style="list-style-type: none"> 現在4カ所ある集出荷場をひとつに集約することについて、今後、町・JA・道の駅・sanchikaraの4者で協議していく。
<p>13 ぼうむ合同会社による地域資源（木材・米）活用の取り組み</p> <p>《本山町》</p> <p>嶺北産材やブランド米などの地域資源を活用した加工品の製造を行うとともに、新たな商品開発や販路拡大に組み込み、地域の活性化を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ぼうむ合同会社 本山町 	商工業	<p>＜木工製品の製造・販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> もくレース等のオリジナル木製雑貨について、県外商談会や県内イベント等での販売・PR 木工教室や親子で学習机づくり体験ツアー等の実施 	<p>＜木工製品の製造・販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 木工製品全般の売上金額は増加している。 <p>⇒ R2：2,007千円 → R4：2,663千円</p>	<p>木工品製品全般の売上金額</p> <p>＜目標値（R5）＞ 8,900万円 （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 2,290万円 （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ － （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 2,663万円 （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> もくレース（木製雑貨）については、製造量は安定しているものの販路はほぼ頭打ち状態で売上金額が伸びず、R5目標値には大きく届かない状況である。 （理由） プリチストンの著作権を使ったディスプレイ製品の製造・販売による売り上げ増を見込み、H28年度に産業振興推進総合支援事業費補助金を活用してレーザー加工機を導入し、大手企業との大ロット取引を目標に取り組んできたが、プリチストンの著作権での売り上げが当初の想定よりも伸びなかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大ロット取引に代わる新たな取引先の確保。 	<ul style="list-style-type: none"> 木製雑貨については、現状取引が可能な業者とはほぼ取引できており、現在の売上額を保っていくことに注力していく。 今後は木製雑貨では売上増は厳しいため、家具の製造に力を入れていく。
		<p>＜米焼酎の製造・販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 県外商談会への参加、県内観光イベント等への出店・PR、販売促進活動等の実施 	<p>＜米焼酎の製造・販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品「キルシュバウム ゴールド／プラチナ」（土佐酒造株の酒粕を加えて仕込んだ米焼酎）が発売開始（R5.4） 	<p>焼酎の販売額</p> <p>＜目標値（R5）＞ 1,959万円 （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 442万円 （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ － （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 340万円 （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品が発売され売り上げ増に向けた新たな取り組みが進んだ。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 売り上げ増に向けて、製造量を増やして県内流通にも力を入れていくことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 製造量を増やすとともに、新商品の開発検討などにより、県内流通に力を入れていく。

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性	
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価		
<p>14 碁石茶を中心とした加工品ビジネスの展開</p> <p>《大豊町》</p> <p>大豊町で生産される日本で唯一の伝統製法による微生物発酵茶「碁石茶」の需要拡大に取り組み、400余年継承される製造技術の継承と農家所得の向上を図る。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎大豊町碁石茶協同組合 大豊町 	商工業	<p>＜加工品ビジネスの展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発や販路拡大、品質の管理の着実な実行 ・機能性表示の検討 <p>＜新規生産者（組合員）の確保・育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種フェア等における新規生産者の募集活動の検討 ・碁石茶新需要創造協議会等による製法技術の継承、品質調査 	<p>＜加工品ビジネスの展開＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付加価値を高めた新商品が完成した。⇒限定600本 関東向け 商品名：「監修茶師十段 大山泰成 焙煎碁石茶」 ・番茶フェスティバル（東京銀座開催）へ初出展することができ、全国のお茶ファンにPRすることができた。（R4） <p>＜新規生産者（組合員）の確保・育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製法技術の継承、品質保持の一環として、碁石茶目ならし会を実施することができた。 ・無形文化財登録に向けた取り組みを実施し、指定が確実となったことにより、碁石茶を製造することの重要度を高めることができた。 	碁石茶関連商品の総販売額	<p>＜目標値（R5）＞</p> <p>6,000万円（年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞</p> <p>2,440万円（年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞</p> <p>—（年間）</p> <p>＜直近の実績＞</p> <p>1,684万円（年間）</p> <p>【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、販路が縮小したが、新商品の開発を手がけることにより、新たな販路獲得に向けた準備が整った。 ・無形文化財として指定が確実に、碁石茶のブランド力向上につながるきっかけづくりができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産農家の高齢化、減少とともに、生産及び営業体制が脆弱。（ピーク時（H18頃）7農家、1法人 → R5年度：2農家、1法人） ・碁石茶を産出する産地を産地として育成が必要。 ・大手食品卸会社との取引再開が必要。 ・酸味の強いお茶を嗜好する東南アジア諸国での販路開拓が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・碁石茶産地産地を産地として育成が必要。 ・大手食品卸会社との取引再開が必要。 ・酸味の強いお茶を嗜好する東南アジア諸国での販路開拓が必要。
<p>15 嶺北材を生かしたオリジナル木工製品の製造・販売による地域活性化</p> <p>《土佐町》</p> <p>嶺北産の自然木の魅力を生かしたオーダーメイドの木工製品の製造及びインターネット販売を通じた、地域活性化を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎株式会社 ◎さめうらこむ 土佐地区商工会 	商工業	<p>＜販路開拓・販売促進【株式会社】＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社HPでの販売PR ・大手ショッピングサイトでのネット販売 ・防音ゲージの改良 ・SNSを活用した情報発信 	<p>＜販路開拓・販売促進【株式会社】＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初はBtoBでの販路拡大のため、工場の新設を検討していたが、その後の営業状況を勘案し、現状の規模で、主にBtoCでの販売を実施。 	注文数（株式会社）	<p>＜目標値（R5）＞</p> <p>750件（年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞</p> <p>418件（年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞</p> <p>—（年間）</p> <p>＜直近の実績＞</p> <p>224件（年間）</p> <p>【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にBtoCでの販売に切り替えたことで、現在の経営規模の範囲で注文数が一定確保できていることは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にBtoCでの販路拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・BtoCを中心に現在の経営規模で出来る範囲の事業を継続していく。
		<p>＜販路開拓・販売促進【さめうらこむ】＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社HPでの販売PR ・地域内事業者との連携 ・技術者の確保・育成 	<p>＜販路開拓・販売促進【さめうらこむ】＞</p> <p>—</p>	従業者数（さめうらこむ）	<p>＜目標値（R5）＞</p> <p>6人（年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞</p> <p>5人（年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞</p> <p>0人（年間）</p> <p>＜直近の実績＞</p> <p>0人（年間）</p> <p>【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業者数は目標に達していない <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・自社HPでの販売PR ・地域内事業者との連携 ・技術者の確保・育成

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>16 嶺北地域で140年続く酒蔵の地産外商を核とした地域活性化</p> <p>《土佐町》</p> <p>嶺北地域の酒米にこだわった特徴ある日本酒の品質の向上に取り組むとともに国内外へ販路を拡大し、地産外商による農業及び地域の活性化を実現する。併せて旅行会社のツアーや一般観光客の受け入れ等を実施し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る。</p> <p>【実施主体】 ・◎土佐酒造(株)</p>	商工業	<p><生産性の向上及び販路拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> 作業スペースを囲うための建屋建築、ボイラー2基設置 (R2) 新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金 15,000千円 新工場建設、自動洗瓶機・蒸米温風冷却装置の導入 (R4) 食品加工施設等整備促進事業費補助金 50,000千円 国内及び欧州やアジア地域への営業強化 	<p><生産性の向上及び販路拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> 産振補助金等を活用して新工場の建設、衛生管理の行き届いた設備導入が進み、国内外の需要に対応した高品質な日本酒の生産体制の構築が進んだ。 投資の効果が現れ、国内海外とも大幅な売上増加につながった。 <p>⇒売上高の増加 R2: 2億1,470万円 → R4: 3億2,275万円</p>	<p>売上高</p> <p><目標値 (R5)> 3億6,000万円 (年間)</p> <p><出発点 (H30)> 1億5,067万円 (年間)</p>	<p><R5年度末見込> 3億6,000万円 (年間)</p> <p><直近の実績> 3億2,275万円 (年間) 【R4年度末】</p>	A	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元産の酒米にこだわった日本酒の販路拡大に向けて、品質や衛生管理面が強化された新工場及び酒造設備が整備され、高品質な日本酒の生産が可能となり、販売額は目標を達成する見込み。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外でのさらなる販路拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 新工場建設による品質や衛生面、生産性向上といった利点を生かして、欧州やアジア地域のほか、今後は北米にも販路を広げ、海外展開への加速化を図り、売上の増加につなげる。
		<p><地元産原料米の調達拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐町酒米生産拡大交付金を活用した酒米づくり農家への支援 酒米増産に向けた積極的勧誘、契約農家の確保 	<p><地元産原料米の調達拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> 地元産の酒米の調達量の増加 <p>⇒ R2: 100t → R4: 168t</p>	<p>地元産原料米調達量</p> <p><目標値 (R5)> 170t (年間)</p> <p><出発点 (H30)> 88t (年間)</p>	<p><R5年度末見込> 170t (年間)</p> <p><直近の実績> 168t (年間) 【R4年度末】</p>	A	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> 地元産の酒米の調達量が順調に増加し、R4調達量はR5目標をほぼ達成している。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外での販路拡大に向け、さらなる酒米を確保するため、酒米受託生産組織の立ち上げが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 国内のみならず、欧州・アジア地域など海外への販路拡大のため、集落営農組織のある土佐町松ヶ丘地区で酒米の受託生産法人を育成し、原料米を大量かつ安定的に確保できる体制を築く。
		<p><雇用の創出及び地域経済活性化></p> <ul style="list-style-type: none"> 生産量及び販路拡大による雇用の創出 	<p><雇用の創出及び地域経済活性化></p> <ul style="list-style-type: none"> 雇用の創出 <p>⇒ R2: 17人 → R3: 23人 → R4: 19人</p>	<p>従業者数</p> <p><目標値 (R5)> 25人 (年間)</p> <p><出発点 (H30)> 15人 (年間)</p>	<p><R5年度末見込> 23人 (年間)</p> <p><直近の実績> 19人 (年間) 【R4年度末】</p>	B	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> R3年度までは雇用者数が順調に伸びていたものの、R4年度は退職等により一時的に減少した。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 従業者数の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用条件の改善などにより従業員の確保に向けて取り組む

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>17 大豊町のジビエを活用した新たな商品開発と販路拡大</p> <p>《大豊町》</p> <p>主に大豊町で捕獲されたジビエ肉（シカやイノシシ）を活用した加工品等の商品開発と地産外販を推進することにより、町の産業振興を図る。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎燈ので家 大豊町商工会 	商工業	<p><ペットフードの生産拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> 事業計画の策定 加工場整備に向けた検討 <p><販路拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> 関東圏における各種展示会への出展 産業振興アドバイザー招へい5回（R2） ペットフード成分分析 大消費地（関東・関西・九州）でのジビエペットフード商品展示会出席 販促グッズ作成 産業振興推進総合支援事業費補助金（ステップアップ事業）活用（R5） 県内ペットショップ等との連携 	<p><ペットフードの生産拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> 高知県産業振興センター、高知銀行のサポートにより事業戦略シートを策定し、事業収益性や事業の方向性を整理できた。 加工場整備も視野に入れた協議の実施 <p><販路拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興推進総合支援事業費補助金を活用し、展示会等への出展による販促活動実施 ⇒国内9会場にて出展（R5） 付加価値を高めたジビエペットフード商品開発の実施 	<p>出荷量 (燈ので家)</p> <p><目標値（R5）> 2.1t (年間)</p> <p><出発点（H30）> 0t (年間)</p>	<p><R5年度末見込> — (年間)</p> <p><直近の実績> 0.24t (年間) 【R4年度末】</p>	D	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業収益性や事業方向性の整理及び展示会等への出展を積極的に増やすことができたことで、新規販路獲得の可能性がでてきた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工拠点が遠隔地にありコストと時間がかかっている。 原材料（シカ肉）の確保 担い手の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 加工拠点の新設も視野に入れた生産体制の拡大 各種展示会や商談会を活用した販促活動の実施と販路拡大

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>18 嶺北地域の連携による交流人口の拡大</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>観光を軸として、吉野川の水源地域における豊富な地域資源や特色のある取り組みなどを横断的につなぐ広域観光の推進により、「れいほく」の魅力をグレードアップさせるとともに、一元的な情報発信や一般旅行、教育旅行、農都交流、国際観光の誘致を通じて、交流人口の拡大と経済の活性化を図る。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎(一社)土佐れいほく観光協議会 ・本山町 ・大豊町 ・土佐町 ・大川村 	観光	<p><エリアマーケティング機能強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを活用した市場調査 ・観光施設の入込数等の実態調査 <p><れいほくならではの魅力ある商品開発の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムの開発・磨き上げ ・周遊・宿泊促進商品の開発・磨き上げ <p><セールスの強化・推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社へのセールスの実施 ・企業や大学等へのセールス、タイアップ <p><れいほくならではの情報発信・PRの強化・推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラットフォームの整備 ・会員へのPR ・デジタル・アナログメディアを活用したPR ・OTAを活用したPR ・県や高知市、メディア等と連携したPR ・土産、飲食等の情報収集・発信・サポート ・広域イベントの支援 <p><受入体制づくりの推進、基盤の整備・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成及び担い手の創出 ・担い手支援 ・住民の参画の推進及び意識醸成 ・受入体制の整備(ソフト・ハード整備) ・組織内体制強化 ・地域事業者・団体等との連携・協力体制強化 ・ワンストップ窓口体制の構築 	<p><エリアマーケティング機能強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを活用した市場調査や観光施設の入込数等の実態調査の結果を分析、関係者へフィードバック。 <p><れいほくならではの魅力ある商品開発の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県事業「土佐の観光創生塾」や協議会アドバイザーを活用した体験プログラムの開発 ⇒21件(R3:11件、R4:10件) ・協議会アドバイザーを活用した周遊商品の開発 ⇒40件(R3:27件、R4:13件) ・協議会アドバイザーを活用した宿泊商品の開発 ⇒10件(R3:3件、R4:7件) ・れいほく体験博覧会「れいほくくる。」の実施(R4、R5) ・体験型観光促進事業費補助金の創設 ⇒3事業者 ・バスツアー補助金の創設 ⇒7事業者、30件 <p><セールスの強化・推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況を見つづ、旅行会社等へのセールスを実施 ⇒R3:150社 → R4:232社 ・メディア系旅行会社において募集型企画旅行の誘致を実施 ⇒R3:17本 → R4:28本 ・嶺北地域誘客促進(クーポン券)キャンペーンの実施(R3~R4) <p><れいほくならではの情報発信・PRの強化・推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPのリニューアル(R4.4~) ・SNS等のデジタルメディアやテレビ・新聞広告等のアナログメディアを活用し、PRを実施 ・OTAを活用したPR(120商品掲載中) <p><受入体制づくりの推進、基盤の整備・強化></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域観光組織担当者会への出席 ・土佐の観光創生塾への参加 ・じゃらん「観光振興セミナー」の受講 ・クーポン事業に関する地域関係者との協議 ・教育旅行の受入手配 ⇒受入件数 R3:92校 7,265人 R4:123校 12,777人 ・旅行業取扱主任者の合格(R4.10) ・観光庁候補DMOへの登録 	<p>主要観光施設の入込数</p> <p><目標値(R5)> 459,267人 (年間)</p> <p><出発点> 284,813人 (H27~29平均)</p>	<p><R5年度末見込> — (年間)</p> <p><直近の実績> 371,326人 (年間) 【R4年度末】</p>	C	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムや周遊促進商品の開発、磨き上げなどにより、目標値は下回っているものの、観光施設、体験施設、飲食施設、物産施設の全てにおいて、入込数は増加傾向で順調に推移している。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十川や仁淀ブルーと比べ訴求力が弱く、選ばれる(わざわざ嶺北に来る)観光地づくりに向け、さらなる商品開発等が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな環境が残る山岳、雄大で美しいさめうら湖やアウトドア拠点施設を活用した嶺北ならではの体験プログラムを開発、磨き上げ、経済効果に繋がる観光基盤を整備する。 ・県外から車で来高する者が通過するという利点を生かして大豊ICで降りし、わざわざ嶺北に来る(嶺北が目的地となる)仕掛けづくりを進める。 (肉フェス、うまいもの市、川のフェスティバル、山開きなどイベントの開催) ・早明浦ダム工事により、教育旅行における早明浦ダム見学ができなくなることから、工事現場を見学するインフラツーリズムの商品造成を土佐れいほく観光協議会が中心となって検討する。
		<p>主要宿泊施設 宿泊者数</p> <p><目標値(R5)> 24,250人 (年間)</p> <p><出発点> 14,577人 (H27~29平均)</p>	<p><R5年度末見込> — (年間)</p> <p><直近の実績> 27,897人 (年間) 【R4年度末】</p>	S	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2年度から新型コロナウイルス感染症によって落ち込んだ観光需要の喚起策、また閑散期対策としてR3年度からクーポン事業を実施し、宿泊者数はコロナ前のR元年度の水準を取り戻し、目標を達成した。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順調に宿泊者を呼び込むことが出来ているものの、土日の予約が満室となっていることから、地域の受け入れキャパシティが頭打ちとなっている可能性がある。 ・閑散期や平日の旅行者を呼び込む手立てを検討する必要がある。 			
		<p>民泊受入世帯数</p> <p><目標値(R5)> 120世帯 (年間)</p> <p><出発点(H30)> 89世帯 (年間)</p>	<p><R5年度末見込> — (年間)</p> <p><直近の実績> 57世帯 (年間) 【R4年度末】</p>		D		<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で民泊の受入を中止している。 ・民泊受入家庭の実態を測るため、アンケート調査を実施し、実態を把握したところ、受入世帯数が減少した。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民泊の受入を中止している間に、受入家庭の意欲低下が懸念され、現状、減少傾向にある。 	

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>19 嶺北広域観光アウトドアの里づくり</p> <p>《嶺北地域全域》</p> <p>モンベルの監修によるアウトドア拠点施設(モンベル アウトドアヴィレッジ本山)を核として、嶺北地域の豊かな自然や魅力ある体験プログラムを全国に発信することで、嶺北地域への誘客を促進し、交流人口の拡大による地域経済の活性化を図る。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎本山町 大豊町 土佐町 大川村 本山町白髪山・工石山保全活用推進協議会 	観光	<p>＜アウトドア拠点施設（モンベル アウトドアヴィレッジ本山）の運営・誘客＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内旅行会社、学校等への施設利用に向けた営業活動（R2～） ・防災プログラムや地域学習など多様なニーズに対応した修学旅行の受け入れ（R3～） ・ガイド等養成講座の実施（ラフティング等）（R3：18回 R4：11回） ・モンベルフレンドフェアin本山の開催（R4） ・各種イベントの実施による本山町内各地への誘客 	<p>＜アウトドア拠点施設（モンベル アウトドアヴィレッジ本山）の運営・誘客＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者は順調に増加している。 ⇒利用者数 R2：58,674人 → R4：76,236人 ⇒ニーズに対応した修学旅行の受け入れ ・地域課題解決WS：県内高校1校、防災学習：県内高校1校（R3） ・防災学習：県外中学校3校（R4） ⇒ガイド等養成講座の受講者 29回、延べ160人（R2～R4） 	<p>モンベル アウトドア ヴィレッジ本山の 利用者数</p> <p>＜目標値（R5）＞ 50,000人 （年間）</p> <p>＜出発点＞ 43,013人 （R元.7～12月）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 76,236人 （年間） 【R4年度末】</p>	S	<p>〔評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般観光客だけでなく、修学旅行などの団体客の誘致活動を行い、利用者数が順調に伸びており、R5目標を達成している。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体客の誘致継続が必要。 ・閑散期対策（12月から3月）が必要。 ・モンベルから本山町内各地へ流れていく人が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な団体客（教育旅行等）の誘致活動の継続。 ・土佐れいほく観光協議会と連携し、モンベルを訪れた人が町内および嶺北地域内を周遊できる仕組みづくり。 ・本山町と歴史的つながりのある大阪市西区との連携を強化し、モンベルを軸にした農村交流などの取り組みを実施。
		<p>＜白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白髪山、工石山観光のPRの実施 ・登山道や案内看板等の整備 ・本山町登山ガイド養成講座の実施 	<p>＜白髪山・工石山への受入体制整備、誘客促進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンベルアクティビティ利用者数（R2～R4） 白髪山トレッキング 66人 奥工石山トレッキング 73人 ・本山町登山ガイド養成講座の実施 14回、延べ69人（R2～R4） 	<p>白髪山・工石山への 観光客数</p> <p>＜目標値（R5）＞ 200人 （R2～5累計）</p> <p>＜出発点＞ 54人 （H28～30累計）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ 170人 （R2～5累計）</p> <p>＜直近の実績＞ 139人 （R2～4累計）</p>		B	<p>〔評価〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンベルアクティビティ利用者をはじめと誘客促進が進むとともに、登山ガイドの養成も着実に進んでいる。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け入れ体制の整備、誘客促進に向けた取り組みが必要。

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>20 嶺北地域における山岳観光の推進 《嶺北地域全域》</p> <p>自然王国白滝の里を拠点として、四国山地、吉野川、さめうら湖といった自然の資源を活かし、自然や人とのふれあい・交流を深める新たな観光コンテンツをつくり、交流人口の拡大を目指す。</p> <p>【実施主体】 <ul style="list-style-type: none"> ◎大川村 ◎（一社）大川村ふるさとむら公社 本山町 大豊町 土佐町 </p>	観光	<p><地域資源を活用した体験プログラムの開発と磨き上げ> <ul style="list-style-type: none"> ・石鎚山系の豊かな自然を活かした体験プログラムの造成 ・インバウンド向け看板商品の造成 </p> <p>◎大川村ブランディング推進協議会における大川村の知名度向上に向けた協議 <ul style="list-style-type: none"> ・まるごと大川のPRロゴを村民総選挙により決定（R3） ・ロゴを活用した販促品（のぼり旗、ハッピ、トートバック等）を制作（R3） ・観光動画・パンフレットを制作（R3） ・大川黒牛・土佐はちきん地鶏のPR動画制作（生産現場にフォーカス）（R4） ・大川黒牛・土佐はちきん地鶏のプロモーション展開（地鶏牛）（R4） ・プロモーション事業契約締結（R5） </p> <p>◎その他 <ul style="list-style-type: none"> ・はちきん食べようカーニバル R2.7から毎月開催（R5.8まで計23回開催） ・大川村謝肉祭（R4.11.3 約1,500人参加） ・大川村観光情報発信サイト「でいぐ！大川村」による情報発信の継続。 </p> <p><白滝の里再整備> <ul style="list-style-type: none"> ・白滝の里再整備の検討 </p>	<p><地域資源を活用した体験プログラムの開発と磨き上げ> <ul style="list-style-type: none"> ・トレッキングガイドツアーOTA登録 ・SUP体験会OTA登録 ・大川グラベルクリテリウム開催（R元から毎年開催） ・大川村の秘境体験をOTA（中国：Ctrip、台湾：KKday）に登録 </p>	<p>白滝の里施設利用者数</p> <p><目標値（R5）> 15,000人 （年間）</p> <p><出発点（H30）> 9,071人 （年間）</p>	<p><R5年度末見込> — （年間）</p> <p><直近の実績> 8,101人 （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな体験プログラムを造成や、大川村の知名度向上に向けた観光動画の製作、大川村情報サイトの充実等により、白滝の里の利用者増に取り組んでいるものの、R4利用者は目標に達していない。 </p> <p>【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の体験プログラムの磨き上げと新たな体験プログラムの開発が必要 ・各種イベント等の効果的な情報発信が必要 ・広域観光組織等との取組の連携が必要 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大川村の自然を活用したトレッキングやシャワークライミング、早明浦ダム湖を活用したワカサギ釣り体験など、大川村ならではの魅力ある体験プログラムを造成し、交流人口の拡大を図る。 ・広域観光組織等と連携しながら、効果的なプロモーション事業の実施により、大川村の魅力を県内外に発信する。 ・継続的に建物の維持管理上必要な修繕の実施（白滝の里）

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>21 さめうら湖の活用をはじめとしたスポーツ・ツーリズムの振興</p> <p>《土佐町》</p> <p>さめうら湖畔に整備した拠点施設を中心に、カヌーをはじめとしたアウトドアスポーツの競技力の向上や合宿誘致に取組み地域振興を図る。また、さめうら荘のさらなる魅力化とともにレジャーカヌーやサイクリング等の観光客向けのアウトドアアクティビティ体験を提供することで、嶺北地域で連携して地域外から観光客の誘客を図り、交流人口の拡大を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎土佐町 ◎民間事業者等 大川村 本山町 大豊町 	観光	<p>＜さめうら荘への誘客＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接遇のスキルアップ等顧客満足度の向上に向けた取組（通年） ・カヌー、SUP体験をセットにした宿泊プランの提供（通年） ・宿泊客、団体客向け食事メニューの充実 ・さめうらテントパークの段階的な整備によるさめうら湖周辺施設への誘客（R3～） 	<p>＜さめうら荘への誘客＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NHK連続テレビ小説「らんまん」の放送を契機に、新メニューを期間限定で提供 ⇒R5.3～土佐あかうし牧野御前（すき焼きほか） R5.7～土佐あかうし富太郎御前（ステーキほか） ・カヌー、SUP体験をセットにした宿泊プランの提供（通年） ・さめうら荘を含む「湖の駅さめうらレイクタウン」内にある、さめうらテントパークをより充実した施設へと磨き上げるため段階的な整備が始まり、広範囲で周遊促進等の効果が発揮できるようになった。 	<p>さめうら荘利用者数</p> <p>＜目標値（R5）＞ 28,000人 （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 15,961人 （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 18,902人 （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊向け、団体向けの食事メニューの充実や、カヌー、SUP体験をセットにした宿泊プランの提供など、利用者増に向けた取り組みは行っているが、利用者数は目標には達していない状況。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さめうら荘の利用者の増 	<ul style="list-style-type: none"> ・「さめうら荘レイクサイドホテル」、「さめうらテントパーク」、インフォメーション機能およびアクティビティが楽しめる「さめうらカヌーテラス」の集合体である「湖の駅さめうらレイクタウン」を発着場として、他の地域資源や体験型コンテンツをつなぎ合わせながら、交流人口の拡大による地域経済への波及効果を高めていく。 ・さめうら湖周辺施設への誘客を図るために、さめうらテントパークの段階的な整備を順次進める。
		<p>＜さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カヌーアカデミーの実施 ・SUP、サイクリング、体験学習の実施 <p>＜カヌー拠点施設への誘客＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPやSNS等を活用した情報発信 ・さめうらテントパークの整備（R3：1期工事） 観光施設等緊急整備事業費補助金 33,316千円 ・宿泊棟8棟撤去し区画サイトを整備（電源付） ・車両用通路整備（大型SUV走行可能） ・炊事棟、Wi-Fi整備（R5：2期工事） 観光振興推進総合支援事業費補助金 12,823千円（見込） ・テントサイト増設（2サイト） ・管理棟の新設 	<p>＜さめうら湖を核としたスポーツツーリズムの振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さめうら湖を中心とした自然体験型イベントの実施により観光交流人口の拡大につながった。 ⇒カヌー拠点施設利用者数 R2：6,329人 → R4：12,152人 <p>＜カヌー拠点施設への誘客＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さめうら荘を含む「湖の駅さめうらレイクタウン」内にある、さめうらテントパークをより充実した施設へと磨き上げるため段階的な整備が始まり、広範囲で周遊促進等の効果が発揮できるようになった。 	<p>カヌー拠点施設利用者数</p> <p>＜目標値（R5）＞ 1,520人 （年間）</p> <p>＜出発点（H30）＞ 0人 （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 12,152人 （年間） 【R4年度末】</p>		S	
<p>22 集落活動センター西峯におけるビジネス創出による地域活性化の取り組み</p> <p>《大豊町》</p> <p>集落活動センター西峯が、遊休施設(廃校のグラウンド)を活用し、林業用苗木(コンテナ苗)の生産・販売に取り組み、地域の活性化を目指す。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎西峯地区活性化推進委員会 大豊町 	その他	<p>＜林業用苗木（コンテナ苗）の生産体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移植、出荷作業を絡めたイベントの実施検討 ・地元関係者への移植、出荷作業参加呼びかけ <p>＜林業用苗木（コンテナ苗）の生産・販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散水等栽培管理/作業日誌への記録 ・林業振興事務所等の技術支援、運営支援 ・コンテナへの移植作業 ・播種、出荷 	<p>＜林業用苗木（コンテナ苗）の生産体制の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病害虫による被害により出荷本数が大幅に減少した（R3） <p>＜林業用苗木（コンテナ苗）の生産・販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県森林技術センター、嶺北林業振興事務所等の指導を受け、現在は病害虫による被害が抑えられており、出荷本数は持ち直してきた。 R2：7,518本 → R3：2,820本 → R4：16,936本 	<p>出荷本数</p> <p>＜目標値（R5）＞ 40,000本 （年間）</p> <p>＜出発点（R元）＞ 20,900本 （年間）</p>	<p>＜R5年度末見込＞ — （年間）</p> <p>＜直近の実績＞ 16,936本 （年間） 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県森林技術センター、嶺北林業振興事務所等の指導を受け、現在は病害虫による被害が抑えられており、出荷本数は持ち直してきたものの、目標には届いていない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗木の出荷本数は持ち直してきたが、出荷時期が定まっておらず、生育状況によっては、大量に廃棄しなければならない。 ・育苗管理する人材の確保ができていない。 ・販路に限られており、生産数を伸ばす事業戦略を立てることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育ちすぎて規格外となった苗は廃棄するなど、杉の品種や生産量について、検討する必要がある。 ・育苗管理の人材について、集落支援員等の確保を引き続き検討していく。

項目名及び事業概要	分野	取り組みの概要	具体的な成果 (可能な限り具体的な数値を記載)	目標値や実績等		3年半の取り組みの総括		今後の方向性
				目標値 出発点	令和5年度末見込 直近の実績	評価	これまでの取り組みについて、 成果を踏まえた総合評価	
<p>23 集落活動センターいしはらの里による地域活性化の取り組み</p> <p>《土佐町》</p> <p>石原コミュニティセンターを活用し、宿泊事業を行うとともに、体験メニューによる団体ツアーや個人客受入れ及び林業研修「森の教習所」実施による研修生受入れなどにより交流人口を拡大することで、宿泊客の増加を図り、集落活動センターの収益向上につなげる。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎合同会社いしはらの里 いしはらの里協議会 土佐町 	その他	<p><交流人口の拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> 自然体験型プログラムの実施 <ul style="list-style-type: none"> あめごの掴み取り バームクーヘン作り体験 など 県内外の小中高校生の修学旅行の受入れ JTBツアーの受け入れ <p><宿泊施設の整備・運営></p> <ul style="list-style-type: none"> 体験メニューの見直し(宿泊と体験のセットプランの造成) 宿泊連絡会を毎月開催し、宿泊業務の運営、改善について協議 	<p><交流人口の拡大></p> <p>⇒宿泊者数が増加。 R2:352人 → R4:562人</p> <p>⇒体験メニュー受け入れが増加。 R2:490人 → R4:1,140人</p> <p><宿泊施設の整備・運営></p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな体験メニューの造成 ⇒羽釜ご飯づくり体験(R4)など 宿泊後の掃除などの業務をルール化 毎月の宿泊連絡会において、予約状況の確認と体験メニューの実施方法について確認 	<p>宿泊者数(延べ)</p> <p><目標値(R5)> 1,000人 (年間)</p> <p><出発点(H30)> 93人 (年間)</p>	<p><R5年度末見込> — (年間)</p> <p><直近の実績> 562人 (年間) 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種イベントや体験メニューの実施により、宿泊者数はコロナ前の水準に戻りつつあるものの、目標には達していない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験メニューの見直し、ブラッシュアップ 各種イベント、情報発信の充実 利用者増に向けた営業体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 交流人口の拡大に向けて、宿泊や各種イベント、体験メニューの充実を継続していく。 いしはらの里では、加工品(山のラー油)の製造や林業など様々な取組があり、宿泊だけでなく、地域全体で稼げる取り組みを加えて、雇用の創出につなげていく。
<p>24 集落活動センター汗見川による地域活性化の取り組み</p> <p>《本山町》</p> <p>集落活動センター汗見川が、宿泊施設「汗見川ふれあいの郷清流館」を活用した宿泊事業や定期的開催するイベント及び体験メニューにより交流人口の拡大を図るとともに、地域で栽培したシソの加工品作りや地元メーカーへの出荷等による地域活性化に取り組む。</p> <p>【実施主体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎汗見川活性化推進委員会 本山町 	その他	<p><交流人口の拡大></p> <p>各種イベントや交流事業を実施(主なもの/コロナの影響で中止の年あり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 岸つつじほのほの体験ツアー 汗見川でチャチャ茶 セタランチ そばの収穫祭4回(種まき、収穫、脱穀、そば打ち体験) クリスマスランチ ひなまつりランチ 大阪市西区にし恋マルシェ出店(H30~) 大阪市西区九条北フェスティバル出店(R4~) 大阪市西区住民による汗見川モニターツアー(R4) 	<p><交流人口の拡大></p> <p>・宿泊者数はコロナ前の水準に戻りつつある。 ⇒R2:436人 → R4:788人 R5(4月~8月)705人予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪市西区との交流が活発化 ⇒R5交流事業(予定) ・10/29(日)「にし恋マルシェ」出店(汗見川+行政) ・11/5(日)「区民まつり」出店(汗見川+行政) ・秋以降 西区から本山町へのツアー開催(関係者が来町) ・R6.2月「九条北フェスティバル」出店 	<p>宿泊者数(延べ)</p> <p><目標値(R5)> 1,400人 (年間)</p> <p><出発点(H30)> 838人 (年間)</p>	<p><R5年度末見込> 900人 (年間)</p> <p><直近の実績> 788人 (年間) 【R4年度末】</p>	D	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種イベントや体験メニューの実施により、宿泊者数はコロナ前の水準に戻りつつある。 ・大阪市西区との交流も活発になり、今後は自治体間では姉妹都市や連携協定締結等の枠組みを検討予定。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 汗見川ふれあいの郷清流館」を拠点とした各種イベント、体験メニューの充実、情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の拡大に向けて、宿泊や特産品に関する情報発信、各種イベント、体験メニューの充実を継続していく。 ・大阪市西区との交流においては、姉妹都市や連携協定覚書等の枠組みをつくり、自治体間での正式な連携事業として検討していく。
		<p><シソの生産拡大および加工品の販売促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で収穫したシソを集落活動センター汗見川が買い上げ、お湯で煮出して抽出した「シソ原液」を侷さめうらフーズに納品。 ・栽培方法の統一によりさらなる品質向上を目指すため、嶺北農業改良普及所の協力のもと、栽培マニュアルを作成(R2) 	<p><シソの生産拡大および加工品の販売促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・侷さめうらフーズのしそジュース類の売り上げ増に伴い、シソ原液出荷量は順調に伸びている。 ⇒R2:8,460L → R4:10,278L ⇒侷さめうらフーズと集落活動センター汗見川とのコラボによるしその商品化・地産外販の取り組みが、「高知県地場産業大賞 産業賞」を受賞(R3) 	<p>シソ原液出荷量</p> <p><目標値(R5)> 9,000L (年間)</p> <p><出発点(R元)> 7,092L (年間)</p>	<p><R5年度末見込> — (年間)</p> <p><直近の実績> 10,278L (年間) 【R4年度末】</p>	S	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の注文数量に応じたシソ原料生産能力は十分対応できる状況である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センタースタッフの高齢化を見据えた原料(シソ抽出液)の生産体制の確保。 ・原料(シソ抽出液)の抽出機械の導入による生産効率化及び生産量の拡大が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・汗見川地域の生産効率化に向けた加工場整備、抽出機械の導入検討 ・シソの安定生産のための栽培技術のさらなる普及促進